
UNAIDSの ジュニア・プロフェッショナル・ オフィサー・プログラム

UNAIDS 人材開発部門

35年以上前に最初のHIV症例が報告されて以降、世界全体で7800万人がHIVに感染し、3500万人がエイズ関連の疾病で死亡しています。UNAIDSは1996年に活動を開始して以来、HIVの流行が過去の歴史となることを願いつつ、世界、各地域、各国、各地方の指導者を励まし、工夫を促すために様々なかたちで協力してきました。

どうしてUNAIDSなのでしょう？

エキサイティングな任務

2030年までに公衆衛生上の脅威としてのエイズ流行を終結させることは国際的な持続可能な開発目標（SDGs）の一部であり、UNAIDSはその実現に向けて主導的な役割を担う機関です。

方針の決定には、HIV陽性者やHIVに影響を受けている人たちが加わり、この人たちを中心にすえたエイズ対策の企画、実施、モニタリングが進められています。対策の妨げとなる法的、政策的障壁を克服する果敢なアドボカシー（政策提言と実施支援）も行っています。方針決定のプロセスから外れているコミュニティの意見が反映できるようにする役割も担っています。

UNAIDSは、政府部門と民間、コミュニティを結び付け、活動の活性化をはかる戦略方針の決定やアドボカシー、連絡調整、技術支援を行っています。

UNAIDSはHIVの疫学統計、プログラムの普及状況および財源について、世界で最も包括的かつ集中的なデータの収集を進めています。効果的なエイズ対策の実現には不可欠な作業です。

UNAIDSは国連改革のモデルでもあります。国連機関による唯一の合同プログラムなのです。それぞれの専門性を生かした11の国連機関が共同スポンサーとなり、統治機構の中に市民社会代表が加わっている唯一の国連機関でもあります。

門戸は開かれています

UNAIDS事務局は世界の70カ国に事務所を設けています。スタッフの70%は現場スタッフです。

UNAIDSは共同スポンサー制の組織なので、ジュニア・プロフェッショナル・オフィサー（JPOs、若手専門職）は幅広い国連機関やプログラムで仕事を体験することができます。このことはJPOが国連や国際NGOの職に就く際にも大きな助けとなっています。

初年度のJPOには、新しい仕事に踏み出すための初期研修プログラムや個別指導の機会も提供されます。

UNAIDSや国連システムへの理解を深め、ネットワークづくりを進めるためにJPO Get-Together（JPO集まれ）というwebinar（オンラインセミナー）のシリーズも再スタートしています。

JPOsには、正規職員と同じように研修を受ける機会があります。さらに事務局は、現役のJPOsと相談しながら、新しい研修の枠組みを開発することにも取り組んでいます。

研修の経験を生かし、指導者へのアドバイスを行うため、人事部は定期的にJPOsとの面接を行っています。

JPOsには、UNAIDS職員の内部昇格への候補となる資格もあります。

ここ数年では、16人のJPOsがUNAIDS事務局のP2、P3、P4レベルのスタッフに選ばれています。

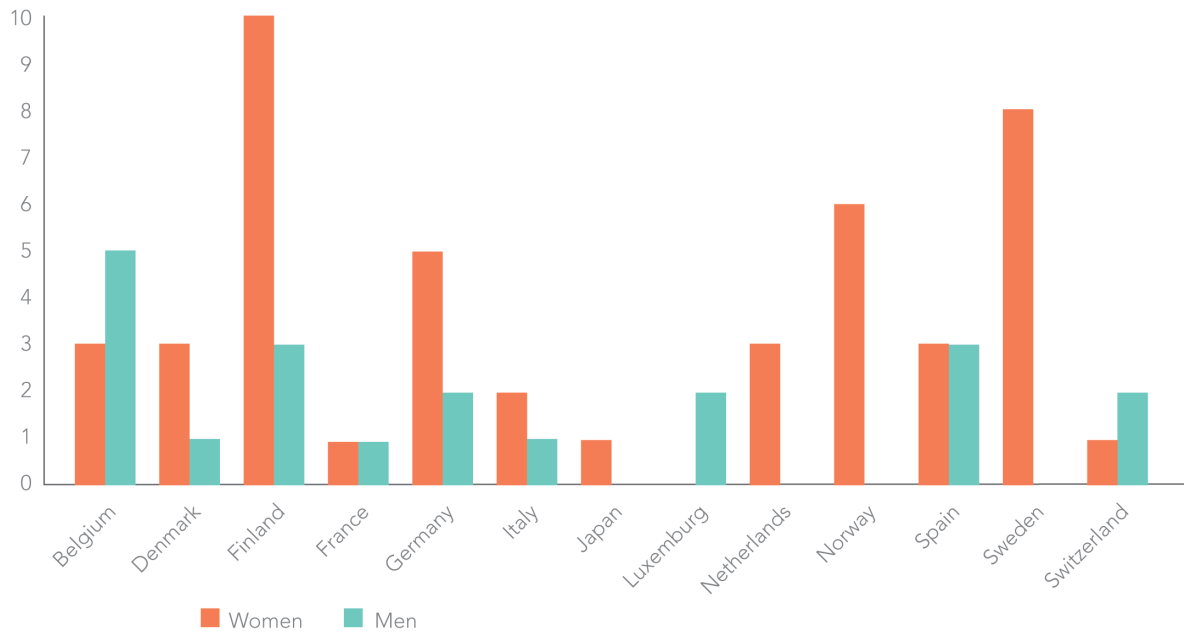


South Sudan. UNAIDS.

UNAIDSのジュニア・プロフェッショナル・オフィサー

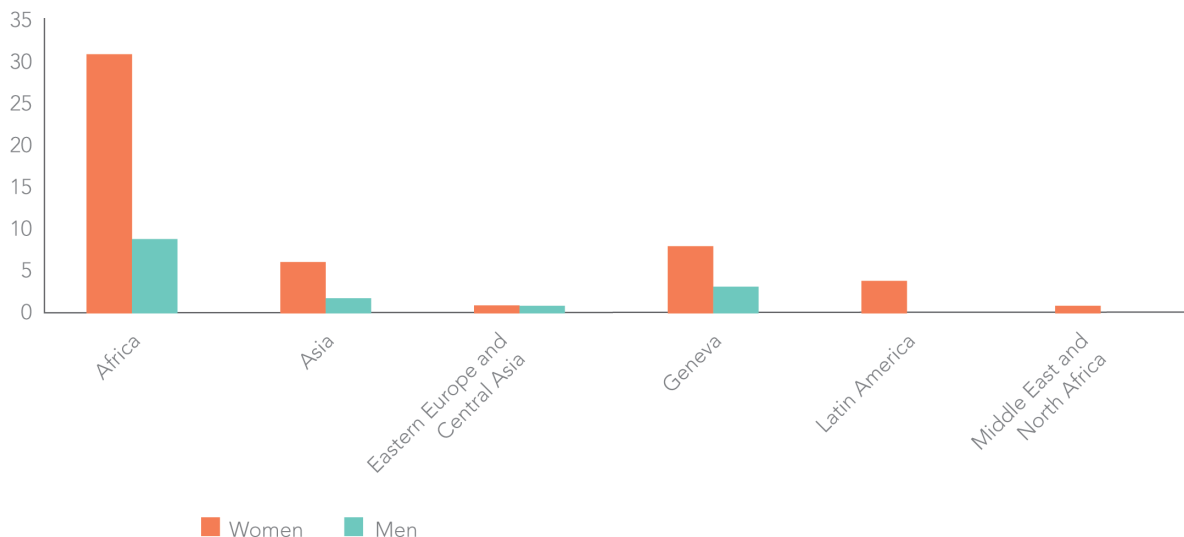
13のドナー国からの支援により、UNAIDSは過去10年で66人のJPOsを迎え入れています。そのうち3分の2は女性です。私たちはさらに受け入れの機会を広げられるよう他のドナー国にも積極的に協力を求めています。

図 ドナー国別のジュニア・プロフェッショナル・オフィサー



UNAIDSの現地スタッフの配置を反映して、JPOsの多くはHIV/エイズの流行の影響が最も大きいサハラ以南のアフリカ地域で任務についています。しかし、他の地域でも魅力的な経験とJPOとしてのキャリアを得ることはできます。

図 2008年から2018年までの66人のJPOsの地域別配置先



地図 UNAIDSの活動地域

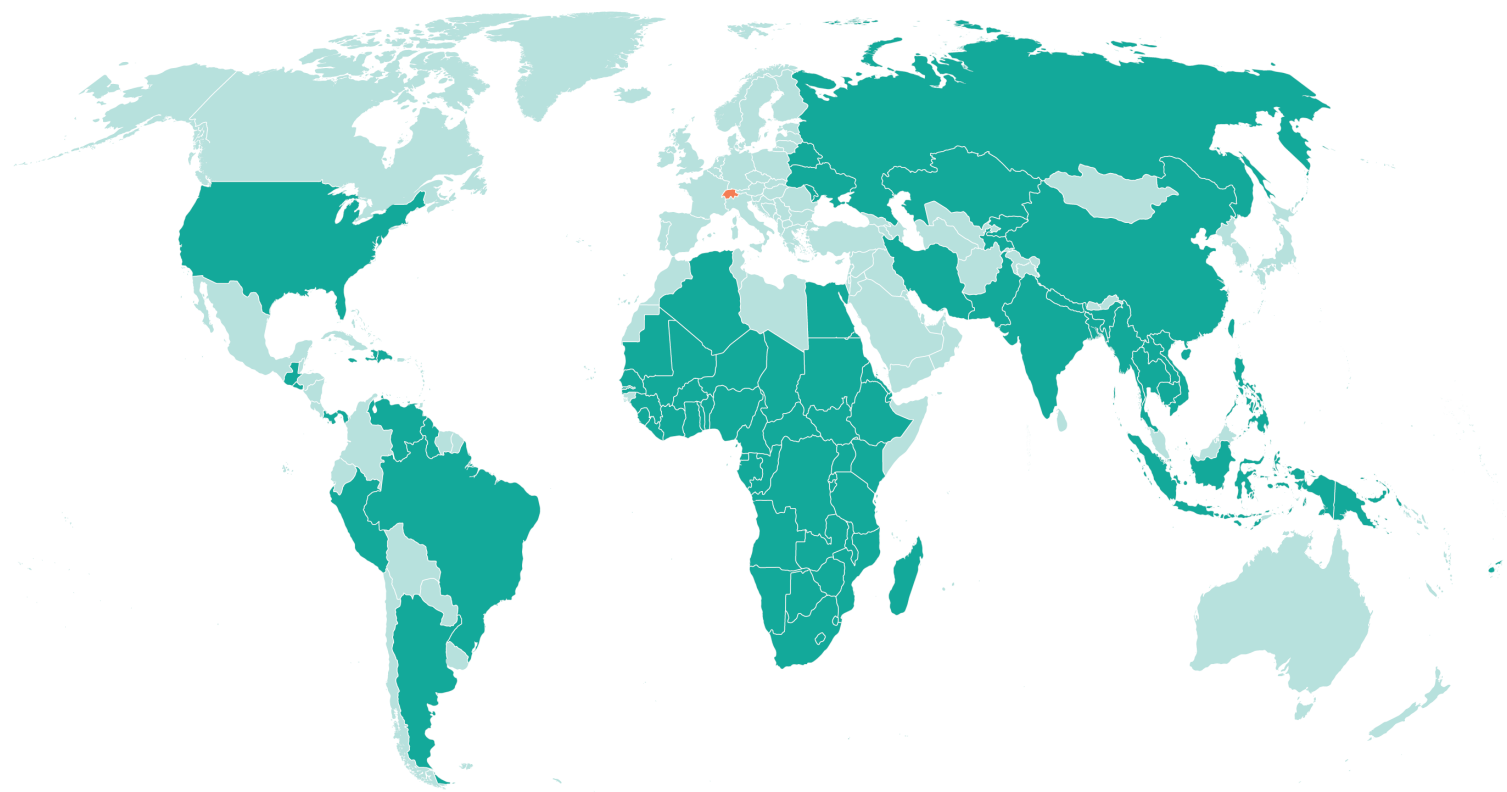
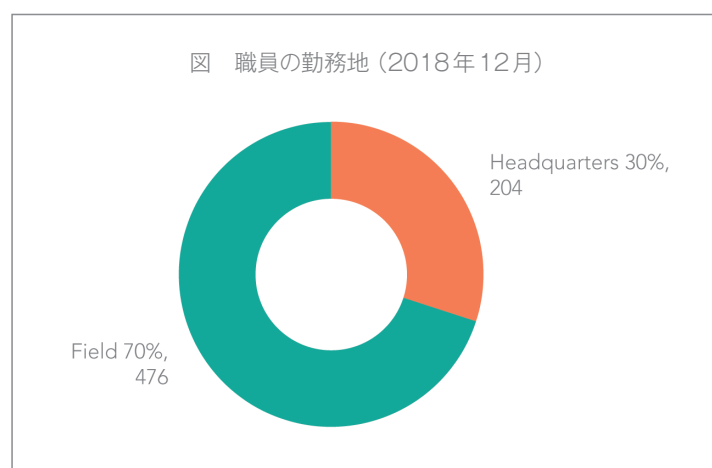


図 職員の勤務地（2018年12月）



先輩から

「私は幸運にも、UNAIDSの本部と国別の事務所の両方で働く機会がありました。それぞれ異なる見方ができたと思います。UNICEFに就職する機会が得られたのもその結果でしょう。JPOの経験により、数多くの専門家や個人的な友人とのつながりもできました」

(フィンランドの元JPO)

「グアテマラでの任務は、私の人生における最も貴重な経験の一つです。技術的な専門家やアクティビスト、ドナー、現地政府関係者らと緊密に連携を取りながら働くことで、幅広いネットワークができました。親切的な監督官に恵まれ、いまでも私の人生の師になっています。引き続きこの組織にとどまることができ、パナマ、スイス勤務を経て、もうすぐジャマイカに赴任します」

(スペインがスポンサーだったキューバの元JPO)

「私の経験では、UNAIDSはスタッフに投資して能力構築を助け、意義深い仕事に就く機会を提供してくれます。UNAIDSの任務の核はパートナーシップでしょう。仕事の進路は様々で、昇進の機会もあります。UNAIDSは合同プログラムでもあるので、そこで働くということは国連の11機関と一緒に働いていることになります」

(イタリアの元JPO)

「UNAIDSのJPOの経験で最もよかったのは、異なる専門性と様々な文化的背景を持つ人たちとともに働き、学ぶことができた点です。非常に話がしやすい監督官に恵まれ、私が技術を磨くのを助け、異なるプロジェクトで働く機会を提供してくれました。その経験から学んだことはたくさんあります。常に相手の話を聞き、学び、進化していくこと、多くの仲間と語り合っ刺激を受けること、環境の変化を柔軟に受け入れること、克服困難と思われる試練に直面しても決してあきらめないことなどです。一つのドアが閉ざされていても、他のドアを開くことができるかもしれません」

(ドイツの元JPO)

最近の就業機会

HIV 陽性者の応募はとくに歓迎します。

女性の応募をとくにお勧めします。

<https://www.unaids.org/en/vacanciesandtenders/vacancies>





日本語版翻訳 公益財団法人エイズ予防財団

UNAIDS
Joint United Nations
Programme on HIV/AIDS

20 Avenue Appia
1211 Geneva 27
Switzerland

+41 22 791 3666

unaids.org